

3・4年 単元名「漂着ごみから学ぶ海の環境問題」（5時間）

1 単元設定の理由

身近な海岸に多量に漂着ごみが流れ着くことから、その観察を通して、自分の地域が海で外国とつながっていることを感じさせ、環境問題に関心を持たせたいと本活動を計画した。また、海岸清掃から仲間と協力して環境問題を解決する行動を体験させ、また社会貢献活動を体験させることにつなげたい。

2 単元目標

- ・身近な環境問題に気付くことができる。
- ・身近な環境問題が、国境を越えて海外とつながっていることを知ることができる。
- ・体験を通して主体的に学ぶ姿勢を養うことができる。
- ・興味関心を広げ、他の環境問題にも関心を示すようになる。
- ・自然を守るための問題解決に向けて、自ら考えて行動することができるようになる。
- ・地域の方たちとつながりを持ち、共に環境を守るための活動をとることができる。

3 単元の評価基準

- ・活動や学習内容に積極的な関心を示す。
- ・調査活動に取り組み、調査結果に関心を示す。
- ・取りまとめの活動に積極的に取り組む。
- ・地域の人たちと協力し海岸清掃に取り組む。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	「海岸にはどんなものが流れ着くの？」 野底の海岸の漂着物（ごみ・自然物）について教室内で、ゲームやワークショップ形式で学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい活動であることを印象付け、活動意欲を高める。 ・以降の学習に必要な基礎知識を学ばせる
2	「漂着物調査」 マイクロプラスチック調査を行う。ふるいと水を張ったバケツを用いて砂の中のプラスチックを回収し、実体鏡などを利用し大きさと個数を調べた。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が役割をもって調査活動に取り組むように留意する。 ・調査結果から環境問題に気付かせる。
3	「海のゴミで困るのはだれだろう」 教室内で海洋漂流ゴミの問題点を考え、これまで学習したことについて取りまとめ、冊子作りをする	<ul style="list-style-type: none"> ・児童ごとの得意な役割を与え、冊子づくりに全員が関わるようにする。 ・漂着ごみ問題の具体例を伝える。
4	「きれいにしよう！自分たちの海」 地域の人たちへ呼びかけて海岸清掃を実施した	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や地域の人と協力して取り組みをさせる。 ・低学年の児童に指導できるようにさせる。
外部連携 / 教材等 エコツアーふくみみ大堀氏に、事業構成や実施運営を支援いただいた。		

5・6年 単元名「ウミシヨウブの観察」（5時間）

1 単元設定の理由

身近な海岸に貴重で特異な植物ウミシヨウブが生息しており、安全に観察が行える環境であることから。

2 単元目標

- ・身近な自然の貴重な動植物の生態を知ることができる。
- ・体験を通して主体的に学ぶ姿勢を養うことができる。
- ・興味関心を広げ、他の海洋生物にも関心を示すようになる。
- ・自然を守るための問題解決に向けて、自ら考えて行動することができるようになる。
- ・地域の方たちとつながりを持ち、共に環境を守るための活動をとることができる。

3 単元の評価基準

- ・活動や学習内容に積極的な関心を示す。
- ・観察に自発的に取り組む。
- ・取りまとめの活動に積極的に取り組む。
- ・地域の人たちに発信する。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	「ウミシヨウブいつ咲くの？」 ウミシヨウブの生態について学び、今年のウミシヨウブの開花日を予想する。	・楽しい活動であることを印象付け、活動意欲を高める。 ・以降の学習に必要な基礎知識を学ばせる
2	「野底の海でお花見」 開花したウミシヨウブを観察し、受粉の様子や藻場の生態系を学ぶ。	・全員が安全に観察に取り組むように留意する。 ・貴重な現象であることに気づかせる。
3	「海を流れる生き物調べ」 ウミシヨウブの生態についてとりまとめ、またその他の海面を利用する様々な生物について調べ、冊子を作成した	・児童ごとの得意な役割を与え、冊子づくりに全員が関わるようにする。 ・作業を通して活動を振り返らせる。
4	「きれいにしよう！自分たちの海」 地域の人たちへ呼びかけて海岸清掃を実施した	・友達や地域の人と協力して取り組みをさせる。 ・低学年の児童に指導できるようにさせる。
外部連携 / 教材等 エコツアーふくみみ大堀氏に、事業構成や実施運営を支援いただいた。		